

## 河童考察

羽鳥 佳子

### 身近な存在

河童については、ほぼ日本全国にその伝説・伝承がある。

沼や湖・河川を住处とする代表的妖怪として知られているが、河童の民間伝承には、類似した話が地域により微妙に変化して伝わっている。そこには、それぞれの地域の風土や民族性が濃い影響を与えていると思われる。

河童は人の日常の近くに存在し、目撃談も豊富にある。また、河童は民話の他に絵本や小説にも頻繁に登場する。民俗学者 柳田國男の「遠野物語」は有名である。

### 不条理な世界

私は、芥川龍之介の短編小説「河童」を愛読している。

「どうか Kappa と発音してください」という書き出しから始まるその物語は、精神病患者の第23号が、自分の身に起こった摩訶不思議な出来事を物語るといふもの。彼は登山の最中、遭難してしまって、河童の国にたどり着く。そこで彼は人間社会とは異なった、個性あふれる独自の思想をもった河童社会とふれあい、共感していく。そこには痛烈な社会風刺や芸術に対する毒舌が展開される。

私は、この不条理で異常（河童から見たら人間社会が異常）な河童社会に魅了されてしまい、河童に取り憑かれている。

河童は、他人には理解されない人の心のような、切なさを胸に秘めた存在だと考える。

### 環境保全と河童

近年、河童の目撃談が少なくなっている。それは、沼や湖・河川を住处としている河童たちが環境破壊によりその住处を追われているからだ。

河童たちが棲みやすい環境を守ることが大切だと思う。

昔のように、河童が農作物をちょっと拝借にくるようになれば楽しい。人と河童が共存できる社会なら、それはとても豊かな世界なのだと考える。

以上